

令和7年度 第2回教育課程編成委員会

令和7年11月18日(火)13:00～15:00
国際園芸アカデミー 研修室A

1 開会

2 あいさつ

3 検討事項

(1) 令和7年度前期カリキュラムの実施状況について

・令和7年度 開講科目一覧

資料1

・令和7年度前期 授業評価アンケート結果

資料2-1

資料2-2,2-3

(2) 分野別授業の実施状況

① 花き生産流通分野 生産課題解決演習Ⅱ

資料3-1

② 花き装飾分野 フラワーデザイン実習Ⅰ

資料3-2

③ 造園緑化分野 造園総合実習

資料3-3

④ 文化・利用分野 基本簿記

資料3-4

4 意見交換

「各業界における最近の動向や、アカデミーに期待する教育内容」

5 情報提供

R8年度からの単位制への移行について

資料4

6 授業見学

2学年 造園設計演習

閉会

○マイスター科 1年（前期）開講科目

No.	分野	区分	科 目 名	担当教員	時間数
1	花き生産流通	必 修	栽培・生産論	雨宮	30
2	花き生産流通	必 修	植物生理学	前田	30
3	花き生産流通	必 修	花き生産実習	前田	90
4	花き生産流通	必 修	園芸流通概論	雨宮	30
5	花き装飾	必 修	園芸装飾実習 I	村瀬	30
6	花き装飾	必 修	フラワーデザイン実習 I	林	60
7	花き装飾	選 択	3級園芸装飾技能検定対策実習	村瀬	30
8	花き装飾	選 択	3級フラワー装飾技能検定対策実習	安保	60
9	造園緑化	必 修	造園学概論	今西	30
10	造園緑化	必 修	花修景実習 I	吉田	30
11	造園緑化	必 修	造園施工・管理実習 I	新井	60
12	造園緑化	選 択	3級造園技能検定対策実習	新井	60
13	マーケティング	必 修	商品動向リサーチ I	村瀬	15
14	植物管理	必 修	植物管理基礎実習 I	前田	60
15	国際性	必 修	Global Communication in Horticulture I	大脇	30

○マイスター科 1年（後期）開講科目

No.	分野	区分	科 目 名	担当教員	時間数
16	花き生産流通	必 修	イベント販売実習	前田	15
17	花き生産流通	選 択	生産マネージメント実習 I	前田	75
18	花き生産流通	選 択	生産課題解決演習 I	雨宮	45
19	花き装飾	選 択	園芸装飾実習 II	吉田	30
20	花き装飾	選 択	フラワーデザイン実習 II	林	60
21	造園緑化	必 修	花修景実習 II	吉田	30
22	造園緑化	選 択	造園施工・管理実習 II	新井	60
23	造園緑化	選 択	測量実習	新井	30
24	造園緑化	選 択	製図実習	新井	30
25	造園緑化	選 択	CAD製図実習	堀部	30
26	造園緑化	選 択	イベントディスプレイ実習	新井	30
27	マーケティング	必 修	商品動向リサーチ II	村瀬	15
28	マーケティング	選 択	商品開発演習	小笠原	30
29	マネージメント	必 修	キャリアデザイン I	佐藤	30
30	マネージメント	必 修	起業・経営シミュレーション	佐藤	30
31	文化・利用	選 択	園芸色彩学	荏原	30
32	文化・利用	選 択	いけばな	片倉	15
33	文化・利用	選 択	園芸福祉論・実習	佐々木	30
34	植物管理	必 修	植物管理基礎実習 II	前田	30
35	国際性	必 修	Global Communication in Horticulture II	大脇	30
36	就業体験	必 修	インターンシップ I	各コース教員	120

必 修	495
選 択	150

必 修	300
選 択	495

2025年度（令和7年度）

○マイスター科 2年（前期）開講科目

No.	分野	区分	科 目 名	担当教員	時間数
1	花き生産流通	選 択	生産マネージメント実習Ⅱ	前田	120
2	花き生産流通	選 択	生産課題解決演習Ⅱ	雨宮	60
3	花き生産流通	選 択	基礎育種学	前田	30
4	花き装飾	選 択	フラワー装飾演習	林	60
5	花き装飾	選 択	ウェディング実習	脇田	30
6	花き装飾	選 択	フューネラル実習	村瀬	30
7	花き装飾	選 択	装飾技術スキルアップ実習	吉田	45
8	花き装飾	選 択	2級園芸装飾技能検定対策実習	林	30
9	花き装飾	選 択	2級フラワー装飾技能検定対策実習	新山	60
10	造園緑化	選 択	花修景実習Ⅲ	新井	30
11	造園緑化	選 択	造園施工・管理実習Ⅲ	新井	60
12	造園緑化	選 択	造園総合実習	新井	90
13	造園緑化	選 択	2級造園技能検定対策実習	新井	60
14	造園緑化	選 択	造園工学・施工論	新井	30
15	マーケティング	選 択	SNSプロモーション	中村	30
16	マネージメント	必 修	キャリアデザインⅡ	佐藤	30
17	マネージメント	選 択	基本簿記	佐藤	30
18	文化・利用	選 択	園芸文化研修	今西	30
19	文化・利用	選 択	盆栽実習	福本	15
20	植物管理	必 修	植物管理基礎実習Ⅲ	前田	30
21	国際性	必 修	海外視察研修	村瀬	90
22	就業体験	選 択	インターンシップⅡ	各コース教員	60

○マイスター科 2年（後期）開講科目

No.	分野	区分	科 目 名	担当教員	時間数
23	花き生産流通	選 択	スマート農業研修	雨宮	15
24	花き装飾	選 択	フラワービジネス演習	吉田	15
25	造園緑化	選 択	造園積算・施工管理演習	新井	15
26	造園緑化	選 択	造園設計演習	新井	30
27	造園緑化	選 択	公園・緑化概論	今西	15
28	マネージメント	選 択	植物ビジネス論	村瀬	15
29	就業体験	必 修	インターンシップⅢ	各コース教員	150
30			卒業研究・卒業制作(花き生産コース)	前田	
31	課題解決	必 修	卒業研究・卒業制作(花き装飾コース)	吉田	240
32			卒業研究・卒業制作(造園緑化コース)	新井	

必 修	390
選 択	105

必 修	150
選 択	900

計	2985
---	------

令和 7 年度前期 授業評価アンケート結果について

○ 実施実績

- ・M1は9月22日3限目に、M2は9月24日2限目に、令和7年度前期開講科目の授業評価アンケートを実施。アンケート項目は以下の3つを設定。
なお、項目の詳細は資料2-2, 2-3参照。

①到達度調査・・・シラバスに記載されている、授業ごとに複数設定される到達目標に対して、学生がどの程度習得できたかを自己評価。

②授業満足度調査・・・学生が総合的に判断した満足度。

③授業に対するコメント・・・学生から各授業に対する自由記述のコメント。

○ 分析結果

① 到達度調査

- ・令和7年度はM1の1科目、M2の5科目がS評価を得ている。
- ・M1の科目は検定試験に全員合格したことが要因と考えられる。
- ・M2のS評価5科目の内4科目は全て造園緑化分野の科目であり、今年度受講した学生にとって深く理解できるような丁寧な解説や、意欲を引き出す工夫がある学びやすい授業であった事が考えられる。

科目別の到達度総平均の分布

	S 100~90 (完全に習得できた)	A 89~80 (十分に習得できた)	B 79~70 (習得できた)	C 69~60 (概ね習得できた)	D 59 以下 (習得できなかった)
M1 開講授業 (15 科目)	1(3)	14(12)	0(0)	0(0)	0(0)
M2 開講授業 (22 科目)	5(0)	15(22)	2(0)	0(0)	0(0)

※括弧内の数字はR6年度前期の数値

【到達度平均が S 評価の科目】

OM1 の授業

- ・3級フランダーリ装飾技能検定対策実習(90.6)

OM2 の授業

- ・造園施工・管理実習Ⅲ(91.7)
- ・2級造園技能検定対策実習(91.7)

- ・造園総合実習(92.5)

- ・インターンシップⅡ(94.4)

② 授業満足度調査

- ・令和7年度は「十分満足」の科目数が昨年度から1科目増加し、4科目であった。
- ・一方で「満足」の科目が2科目減少し、「普通」の科目が1科目増えた。
- ・インターンシップⅡは、職場体験を通して職場の様子や業務内容を把握し、企業選択に役立てる事ができたため、高い満足度を得られたと考える。
- ・SNSプロモーションは学生に対し、シラバスの内容の重要性がうまく伝わっていなかつた事がミスマッチに繋がったと考えられる。

科目別の授業満足度平均の分布

	4 4.0 (十分満足)	3 3.9~3.0 (満足)	2 2.9~2.0 (普通)	1 1.9~1.0 (不満)
M1 開講授業 (15科目)	0(2)	15(13)	0(0)	0(0)
M2 開講授業 (22科目)	4(1)	17(21)	1(0)	0(0)

※括弧内の数字はR6年度前期の数値

【授業満足度平均が「十分満足」だった科目】

OM2の授業

- ・2級園芸装飾技能検定対策実習(4.0)
- ・2級造園技能検定対策実習
- ・造園施工・管理実習Ⅲ(4.0)
- ・インターンシップⅡ(4.0)

【授業満足度平均が「普通」だった科目】

SNSプロモーション

③ 授業に対するコメント

各授業に対して、学生から多数の意見・感想が寄せられた。

肯定的なコメントが多かったものの、改善を求めるコメントもあった。

【内容（一部抜粋）】

- ・パワポが進むのが少し早いと思った。(M1 栽培生産論)
- ・本文の和訳の際わかりにくくメモが取りにくいのでもう少しゆっくり教えてほしいです。(M1 Global Communication in Horticulture I)
- ・もう少しだけ編集について学びたかった(M2 SNSプロモーション)

○ 活用方法・改善方法

担当教員から、学生のコメントへの回答やメッセージを記載し、学内に掲示を行う。

授業の改善を求めるコメントを踏まえて、授業内容や進め方の見直しを進める。

令和7年度前期授業評価アンケート結果（M1）

①到達度調査・・・シラバスに記載されている、授業ごとに複数設定される到達目標（※）に対して、学生がどの程度習得できたかを自己評価したもの。

（※）到達目標は、1つの授業に対して最大4つまで設定。

・学生は、S（完全に習得できた）・A（十分に習得できた）・B（習得できた）・C（概ね習得できた）・D（習得できなかった）の5段階で到達目標ごとに自身の到達度評価を実施。

集計時は、[S=95、A=85、B=75、C=65、D=55] の代表値に置換え、学生個人の『到達度』を算出。

②授業満足度調査・・・下記の観点から、学生が総合的に判断した満足度。

- ・授業のテーマは明確に示されていたか
- ・授業の難易度は適切であったか
- ・教科書や配布資料、パワーポイントなど理解できるものであったか
- ・質問や相談ができるよう配慮されていたか
- ・授業を通して、新しい知識や技術を得られたか

・[十分満足（4）・満足（3）・普通（2）・不満（1）] の4段階で評価。

【評価基準】

100 90 80 70 60 0

代表値 95 85 75 65 55

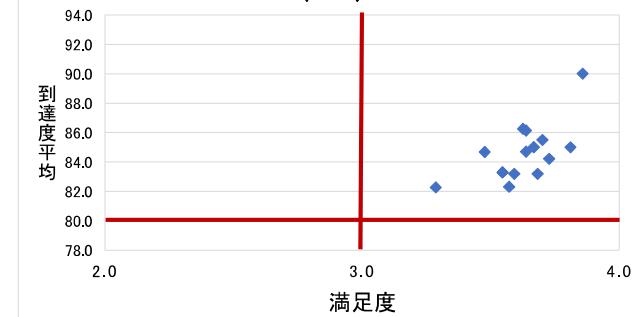
S	A	B	C	D
完全に 習得できた	十分に 習得できた	習得でき た	概ね 習得でき た	習得 できなか った

No.	授業名	履修区分	分野	時間数	担当教員	受講者数	到達目標①		到達目標②		到達目標③		到達目標④		到達度総平均		授業満足度	
							目標	到達度平均	目標	到達度平均	目標	到達度平均	目標	到達度平均	R7	R6	R7	R6
1	栽培・生産論	必修	花き生産流通	30	雨宮	22	①土壤の性質及び肥料の働きについて習得する	82.3	②病害虫対策について習得する	83.2	③かん水システムの特徴について習得する	84.1			83.2	87.5	3.7	3.8
2	植物生理学	必修	花き生産流通	30	前田	22	①植物体の構造とそのたらきを理解する。	83.6	②植物の代謝及びその制御方法を理解する。	82.7	③環境制御による植物のライフサイクルの調節方法を理解する。	82.7	④花の老化の仕組みおよび老化を防止する方法を理解する。	84.1	83.3	88.2	3.5	3.8
3	花き生産実習	必修	花き生産流通	90	前田	22	①花きの繁殖方法を理解する	85.9	②花の栽培管理を習得する	86.4	③花きの出荷調整を習得する	85.0	④チームワークの重要性を理解する	87.3	86.1	89.6	3.6	3.8
4	園芸流通概論	必修	花き生産流通	30	雨宮	22	①国内外の花きの生産状況を理解する。	84.1	②卸売市場や農協の中間業者の役割と機能を理解する。	84.1	③現場観察を通して、最新の情報や商品に触れて、園芸品目の流れを理解する。	85.0	④花きの小売店の現状や課題を理解する。	83.6	84.2	87.6	3.7	3.7
5	園芸装飾実習Ⅰ	必修	花き装飾	30	村瀬	22	①生活空間での植物の装飾方法および家庭園芸での植物の維持管理方法を理解する。	83.6	②制作した寄せ植えハンギングバスケットなどを長期メンテナンスすることによって、管理方法を習得する。	83.2	③園芸装飾実技試験のデモンストレーションを通して、観葉植物を使用した装飾方法を習得する。	82.7	④春から秋にかけての植物の管理方法を習得する。	83.6	83.3	86.8	3.5	3.6
6	フラワーデザイン実習Ⅰ	必修	花き装飾	60	林	22	①フラワーアレンジメントの基本技術を習得する。	83.2	②花束の基本技術を習得する。	83.2	③フラワーデザインについての基本知識を習得する。	83.2			83.2	89.3	3.6	3.8
7	3級園芸装飾技能検定対策実習	選択	花き装飾	30	村瀬	11	①3級園芸装飾技能検定合格水準の技術力を習得する。	86.0	②3級園芸装飾技能検定合格水準の園芸装飾に関する知識を習得する。	85.0					85.5	93.1	3.7	4.0
8	3級フラワー装飾技能検定対策実習	選択	花き装飾	60	安保	10	①3級フラワー技能検定の合格水準の技術力を習得する。	89.3	②学科試験のためのフラワーデザインに関する知識を習得する。	90.7					90.0	90.6	3.9	3.8
9	造園学概論	必修	造園緑化	30	今西	22	①造園の全体像について理解する。	85.0	②日本と海外の庭園・造園やわが国の公園制度などについて理解する。	84.1	③実際に造園空間を見学することにより、様々な造園空間に対する知識を習得する。	85.0			84.7	86.4	3.6	3.6
10	花修景実習Ⅰ	必修	造園緑化	30	吉田	22	①植物の成長と管理方法を継続的に記録することができる。	81.7	②花壇の計画ができる。	82.6	③花を使った修景空間の視察調査を報告することができる。	82.6			82.3	86.4	3.6	3.5
11	造園施工・管理実習Ⅰ	必修	造園緑化	60	新井	22	①造園施設（竹垣、敷石、レンガ舗装など）の施工ができる。	85.0	②造園植物（樹木、下草、芝生など）の生育特性を踏まえた管理ができる。	84.0	③グループでの実習作業を行う際に、コミュニケーションを取りながらチームで作業できる。	86.0			85.0	88.1	3.8	3.7
12	3級造園技能検定対策実習	選択	造園緑化	60	新井	8	①実技試験（製作等作業試験）に関して、規定時間内に規定の寸法どおりにおおむね完成することができる。	85.0	②実技試験（判断等試験）に出題される樹木をおおむね判別することができる。	87.5	③学科試験の合格水準に達する程度の知識を習得する。	86.3			86.3	92.6	3.6	4.0
13	商品動向リサーチⅠ	必修	マーケティング	15	村瀬	22	①春夏期、上位150品目について、学名や原産地や特徴や管理方法などを知る。	79.8	②図鑑やインターネットを利用した植物の調べ方を知る。	86.9	③150品目のデータベースを作成できる。	87.4			84.7	87.6	3.5	3.7
14	植物管理基礎実習Ⅰ	必修	植物管理	60	前田	22	①春・夏期における植物の種類による管理方法の違いを理解する。	85.0	②春・夏期における灌水技術を習得する。	85.0	③春・夏期における温室の管理技術を習得する。	85.0			85.0	89.1	3.7	3.8
15	Global Communication in Horticulture Ⅰ	必修	国際性	30	大脇	22	①英語の基本的な文法を反復練習にて習得する。	81.7	②自己紹介、挨拶等スマートトークができる。	83.6	③他国について学ぶ中で、自國や自分自身への理解を深める。	83.1	④教科書の英文から各章の内容に沿って、英語を理解するために必要な情報を読み取ることができる。	80.7	82.3	84.5	3.3	3.3

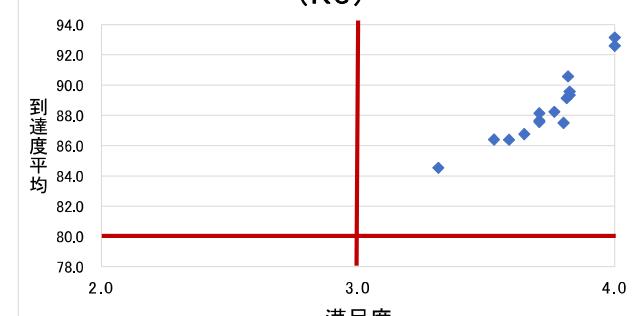
【満足度評価基準】

4	3	2	1
十分満足	満足	普通	不満

授業満足度と到達度平均の分布 (R7)



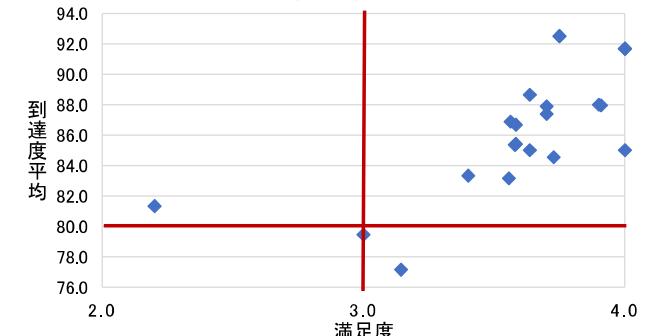
授業満足度と到達度平均の分布 (R6)



令和7年度前期授業評価アンケート結果 (M2)

No.	授業名	履修区分	分野	時間数	担当教員	受講者数	到達目標①		到達目標②		到達目標③		到達目標④		到達度総平均		授業満足度	
							目標	到達度平均	目標	到達度平均	目標	到達度平均	目標	到達度平均	R7	R6	R7	R6
1 生産マネジメント実習Ⅱ	選択	花き生産流通	120	前田	7	施肥設計や品目、品種設定ができる。	79.3	温室の栽培管理ができる。	79.3	生生指導を通じてリーダーシップを理解する	73.6	作業内容のふり返りと必要な改善項目の報告ができる	76.4	77.1	85.0	3.1	3.3	
2 生産課題解決演習Ⅱ	選択	花き生産流通	60	雨宮	6	適切な課題研究テーマと調査内容を選択できる。	83.3	課題研究を通じて課題解決力を習得する。	80.0	課題研究成果を総括し、正しく伝えることができる	75.0		79.5	88.2	3.0	3.0		
3 基礎育種学	選択	花き生産流通	30	前田	11	植物の遺伝の仕組みを理解する。	80.6	様々な育種の方法について知る。	85.0	交配育種に必要な基本的知識および技術を習得する。	83.9		83.1	86.9	3.6	3.5		
4 フラワー装飾演習	選択	花き装飾	60	林	11	空間を花で飾る技術を習得する。	85.9	花き装飾の歴史的かつ文化的行事などの知識を習得する。	84.1	花の原価について知る。	83.2	フローリストとしての発想力や応用力を習得する。	85.0	84.5	81.7	3.7	3.4	
5 ウェディング実習	選択	花き装飾	30	脇田	10	デザイン力、提案力、応用力を習得する。	87.0	ウェディング装花のトータルコーディネートを経験し、空間を花で飾る技術を習得する。	87.0	チームワーク、コミュニケーション能力の重要性を理解する。	91.0	ウェディングの基礎知識を習得する。	87.0	88.0	85.0	3.9	3.8	
6 フューネラル実習	選択	花き装飾	30	村瀬	11	デザイン力、提案力、応用力を習得する。	86.8	フューネラル装花のトータルコーディネートを経験し、空間を花で飾る技術を習得する。	87.7	チームワーク、コミュニケーション能力の重要性を理解する。	88.6	フューネラルの基礎知識を習得する。	88.6	88.0	85.6	3.9	3.7	
7 装飾技術スキルアップ実習	選択	花き装飾	45	吉田	11	フローリストとしての発想力や応用力を習得する。	85.0	フローリストとしてフラワーデザインに関する知識を習得する。	85.0	課題に取り組むことでフローリストとしての作業所作を習得する。	85.0		85.0	84.8	3.6	3.6		
8 2級園芸装飾技能検定対策実習	選択	花き装飾	30	林	1	2級園芸装飾技能検定合格水準の技術力を習得する。	85.0	2級園芸装飾技能検定合格水準の園芸装飾に関する知識を習得する。	85.0		85.0	88.2	4.0	4.0				
9 2級フラワー装飾技能検定対策実習	選択	花き装飾	60	新山	11	2級フラワー装飾技能検定の合格水準の技術力を習得する。	88.6	学科試験のためのフラワーデザインに関する知識を習得する。	88.6		88.6	89.5	3.6	3.9				
10 花修景実習Ⅲ	選択	造園緑化	30	新井	12	有料公園における花修景の植栽計画・植物の特性・年間管理を理解する。	85.0	グループでの実習作業を行う際に、コミュニケーションを取りながらチームで作業できる。	85.8		85.8		85.4	86.0	3.6	3.1		
11 造園施工・管理実習Ⅲ	選択	造園緑化	60	新井	4	造園施設（園路舗装、建仁寺垣など）の施工ができる。	92.5	造園植物（樹木、下草、芝生など）の生育特性を踏まえた管理ができる。	92.5	グループでの実習作業を行う際に、コミュニケーションを取りながらチームで作業ができる。	90.0		91.7	86.8	4.0	3.2		
12 造園総合実習	選択	造園緑化	90	新井	4	造園空間の計画・設計・施工までの一連の作業の流れを理解することができる。	92.5	これまで他科目で学んだことを本科目で活かして実習することができます。	92.5	グループでの実習作業を行う際に、コミュニケーションを取りながらチームで作業ができる。	92.5		92.5	89.6	3.8	3.4		
13 2級造園技能検定対策実習	選択	造園緑化	45	新井	3	実技試験（製作等作業試験）に関し、規定時間内に規定の寸法どおりにおおむね完成することができる。	91.7	実技試験（判断等試験）に出題される樹木をおおむね判別することができる。	91.7	学科試験の合格水準に達する程度の知識を習得する。	91.7		91.7	89.8	4.0	3.5		
14 造園工学・施工論	選択	造園緑化	30	新井	4	造園材料や施工方法について理解する。	92.5	施工管理について理解する。	92.5		92.5		92.5	80.0	3.8	3.0		
15 SNSプロモーション	選択	マーケティング	30	中村	10	YouTubeの仕組みを理解する	81.0	クリップチャンプ等の動画作成アプリを使って動画編集できる	81.0	YouTubeにプロモーション動画（作品）をアップロードできる	82.0		81.3	86.5	2.2	3.4		

授業満足度と到達度平均の分布 (R7)



No.	授業名	履修区分	分野	時間数	担当教員	受講者数	到達目標①		到達目標②		到達目標③		到達目標④		到達度総平均		授業満足度		
							目標	到達度平均	目標	到達度平均	目標	到達度平均	目標	到達度平均	R7	R6	R7	R6	
16	キャリアデザインⅡ	必修	マネジメント	30	佐藤	20	卒業後の現実的なライフプランニング（生活費と給与）を知り理解する。	84.5	建設的なディスカッションを体感し、協働の必要性を理解する。	86.6	労働法、家計・給与、資産形成に関する基本的な知識を習得する。	85.0			85.4	83.5	3.6	3.3	
17	基本簿記	選択	マネジメント	30	佐藤	16	簿記の基礎を理解する。	83.7	期中（開始日から終了日までの間の期間）の処理（仕訳、転記、試算表）及び伝票制を理解する。	83.0					83.3	81.3	3.4	3.2	
18	園芸文化研修	選択	文化・利用	30	今西	16	日本の園芸・庭園文化を体感し、自らの見識を養い理解する。	87.5	これまでに学んできた「花と緑」に関する知識や技能と園芸・庭園文化との繋がりを理解する。	86.9	園芸・造園の社会的意義を知り、長い歴史に培われて來た文化的景観を理解する。	86.3			86.9	88.0	3.6	3.7	
19	盆栽実習	選択	文化・利用	15	福本	14	盆栽の歴史、精神性について知る。	86.7	盆栽の剪定、針金掛け、植え替えを習得する。	86.7	盆栽を通して自然観を表現できる。	86.7			86.7	85.4	3.6	3.4	
20	植物管理基礎実習Ⅲ	必修	植物管理	30	前田	20	春・夏期における植物の種類による管理方法の違いを理解する。	88.0	春・夏期における灌水技術を習得する。	88.0	春・夏期における温室の管理技術を習得する。	87.0	上記の知識・技術を他者に伝達する能力を習得する。		86.5	87.4	88.0	3.7	3.4
21	海外視察研修	必修	国際性	90	村瀬	20	研修テーマを設定し、テーマに応じた調査ができる。	88.0	視察先で説明者の説明を傾聴し、メモをとるなど知識を習得し、国際感覚を養うことができる。	87.0	視察先での学びや気づきを日報にまとめる事ができる。	89.0	研修内容をとりまとめ、報告することができる。		87.5	87.9	87.4	3.7	3.4
22	インターンシップⅡ	選択	就業体験	60	各コース教員	6	社会人としての基本的礼儀、協調性、働く姿勢、実務を習得する。	95.0	研修の目的、内容を理解し、反省点を振り返る力を習得する。	95.0	研修を振り返り、研修内容をとりまとめることができる。	93.3			94.4	89.8	4.0	3.9	

分野別授業の実施状況：①花き生産流通分野

資料 3-1

	R7 年度
科目名	生産課題解決演習 II
履修区分 (受講人数)	選択 (6 名)
開講時期	2 年・前期
時間数	60 時間
担当教員	前田、雨宮

[授業の目的]

『生産課題解決演習 II』では、2 年後期の卒業研究・卒業制作に向け、商品開発や企業連携など現場の課題に直結した課題研究に取り組み、結果に基づいた課題の再構築を通じて課題解決力向上を図る。

[授業の内容]

原則 1 人 1 課題の研究課題を設定し、設定した課題解決に向けた試験を計画・実行し、試験結果とともに検証を行い問題解決に向けた考察を行う。

本年度の研究課題は次の通り。

○「わい化剤処理がペチュニアの覆輪幅に及ぼす影響」

日本大学生物資源科学部の研究報告に基づき、ダミノジット（ビーナイン）剤処理による覆輪幅増加について検証した。高温時の覆輪消失の問題解決につながると期待される。

○「ビオラの交雑育種」

高付加価値を期待できる生産者育種が注目される中、本校オリジナル品種育成を目指してビオラの交雑育種における基本データ採取を目指した。交配親には一部、見元園芸（高知県）のオリジナル品種を同社の許可を得て用いた。

○「汚泥肥料の活用に向けた研究」

可児市下水道課と連携して、下水浄化処理過程で生じる汚泥を利用した肥料の普及に向けた取り組みを行った。花壇における生育試験を行い、汚泥肥料の地元の花壇での利用を提案する予定である。

○「バイオスティミュラント資材が苗物の生育に及ぼす影響」

新しい農業資材として近年注目されているバイオスティミュラントについて、花壇苗の生育に対する影響について調査した。バイオスティミュラントについては、薔薇園植物場（兵庫県）より提供を受け、試験結果については同社に報告する予定である。

○「トルコギキョウの仕立て方法が切花の品質に及ぼす影響」

学生が、農業高校在籍時に取り組んだ試験の継続を希望して取り組んだ課題である。切花トルコギキョウの仕立て方を工夫することで、大輪化や切花品質向上を目指した。

○「珪藻土ウレタンを用いた推し活商品等の開発」

ニッポー工業（岡崎市）と共同で開発を進める植物栽培用珪藻土ウレタンを用いて、「推し活」商品等の開発を行っている。母の日向け商品については、名古屋園芸（名古屋市）で試験販売を行った。また、推し活商品については、推し活フラスタ専門会社ハナノキ（東京都）代表の遠藤氏を訪ね、商品開発への助言をいただいている。

○「ローゼルの鉢物・切り花としての栽培方法の研究」

みのかもローゼル振興会からの依頼により、美濃加茂市山之上地区で栽培されているローゼルについて、鉢物・切り花としての栽培方法を研究した。ピンチの回数による枝数・草丈・実の収量への影響について調査中である。



珪藻土ウレタンを利用した推し活商品



ビオラの交配



バイオスティミュラント試験



トルコギキョウの試験

[授業の効果等]

課題の設定、研究計画、試験の実行、結果の検証を通じて、PDCA サイクルの考え方を理解し、課題の解決能力向上が期待される。個別の課題への取り組みを通じて、学生の自主性・責任感の向上につながったと感じる。

また、企業や自治体、各種団体等の抱える問題について、その解決に向けた課題を設定することで、業界・地域が抱える課題について深く考える機会を得るだけでなく、より実践的な研究を通じて花と緑の業界との連携を深化させることができた。

分野別授業の実施状況：②花き装飾分野

資料 3-2

科目名	フラワーデザイン実習 I
履修区分（受講人数）	必修（22名）
開講時期	1年・前期
時間数	60時間
担当教員	林

〔授業の目的〕

フラワーデザインとは、植物を素材とし、人が手を加えることで、植物の魅力を最大限に引き出しながら用途に合わせた美を表現することである。フラワー・アレンジメントや花束などを制作することにより、フラワーデザインの基礎技術を身につけることを目的とする。

〔授業の内容〕

1. フラワーデザインの概要（花生け）
2. アレンジメントの基本①（ラウンド・ホリゾンタル）
3. アレンジメントの基本②（トライアンギュラー・ファン）
4. アレンジメントの基本③（バーティカル）
5. アレンジメントの基本④（応用）
6. ウエディングブーケの基本
7. コサージの基本
8. プリザーブドフラワーの基本
9. ドライフラワーの基本
10. 押花の基本
11. 花束の基本①（スパイラル）
12. 花束の基本②（パラレル）
13. 生花店での花材選びと制作
14. 試験（筆記・実技）





[授業の効果等]

フラワーデザインについての基本知識を知ることができた。
切花をはじめ、さまざまな素材の扱い方を知ることができた。
フラワー・アレンジメントや花束の基本技術を習得することができた。

分野別授業の実施状況：③造園緑化分野

資料 3-3

	R7 年度
科目名	造園総合実習
履修区分（受講人数）	選択（4名）
開講時期	2年・前期
時間数	90 時間
担当教員	新井

[授業の目的]

本実習ではこれまで学んできたことにより、与えられた敷地空間の計画・設計から施工までを行う。それぞれにテーマ・敷地条件を設定し、平面図・詳細図等その根拠となる設計図書を作成し、そのデザインをもとに実際の空間制作を行うことで、計画・設計・施工までのプロセスを学ぶ。

[授業の内容]

●授業の到達目標

- ①造園空間の計画・設計・施工までの一連の作業の流れを理解することができる。
- ②これまで他科目で学んだことを本科目で活かして実習することができる。
- ③グループでの実習作業を行う際に、コミュニケーションを取りながらチームで作業ができる。

○なんじや祭「デモ・ガーデン」の制作

- ・本学の学園祭であるなんじや祭に来場されたお客様に、楽しんでいただく庭を制作することを目的としている。
- ・学生の提案により園芸療法ガーデン内の四阿内にドライフラワーを飾り、その四阿までに至る庭空間の制作を行った。
- ・学生同士のディスカッションにより計画案を作成し、施工した。

○ぎふワールド・ローズガーデン 実習フィールドの作庭

- ・公共の県営公園に関して学んだ後、各自で作庭案を作成。
- ・個人案は、現況分析、事例調査、計画をA3 サイズ用紙4枚にまとめて整理し、成果報告書とした。
- ・1案を選定し、施工を進めた。

[授業の効果等]

- ・デモ・ガーデン制作では、なんじや祭までの限られた期間の中で効率的に作業を進め、チームワークを育むことができた。また、一部の施工に関し1年生と共同して作業を進めた。2年生がリーダーとなり1年生に指示して行った。作業の指示を出す難しさを体感した。
- ・実習フィールドの作庭では、公共公園の造園空間の特徴、特性を理解することができた。
- ・それぞれの制作において、初めて行う施工作業も多く、技能を習得することができた。
- ・グループでの制作作業で、チームワークとコミュニケーションの大切さを学ぶことができた。
- ・学外での公共空間での施工作業で安全面への配慮など注意すべきことを学んだ。

【デモ・ガーデン制作】

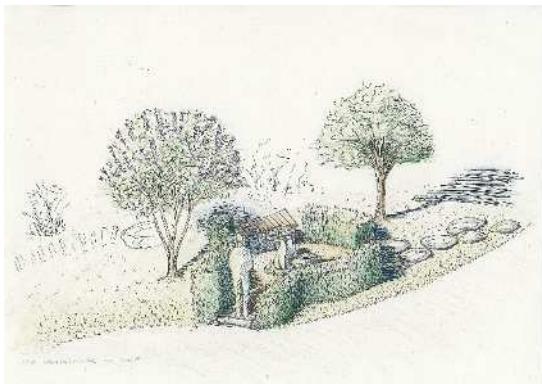


デモ・ガーデン制作 1年生との共同作業



デモ・ガーデン完成

【実習フィールド作庭】



実習フィールド作庭 イメージ図



施工状況



使用する資材は寄付



施工状況

[現状の課題]

ぎふワールド・ローズガーデンでの作庭について

- ・往復の移動時間（約1時間）が学生にとって授業時間の損失となっている。
- ・本年も9月中の気温が高く猛暑日のなかで実習を行っており、学生の体調管理が必要である。
- ・実習フィールドの整備から8年が経過し、作庭も8回目となった。当初の想定通りあと2年程度でエリア内の新たな施工場所が無くなるため、今後の整備について検討を要する。

分野別授業の実施状況：④マネージメント分野

資料 3-4

	R7 年度
科目名	基本簿記
履修区分	選択（16名）
開講時期	2年・前期
時間数	30時間
担当教員	佐藤 智茂

[授業の目的]

- 簿記・会計は企業経営・家計管理上重要な知識であり、業界業種や職種職務に関わらず求められる財務・金融リテラシーである
 - 学習範囲を日商簿記初級水準に設定（決算処理等一部内容を除き、日商簿記3級にほぼ同じ）
- 学生が、花き園芸・造園に関する専門知識・技能と共に簿記・会計の基本を学び習得することで人材価値の向上を期待できる
- 個人（家計）の日常の金銭取引では意識しない複式（一つの取引を二つの視点で捉える）という思考を学ぶ良い機会を与えること

[授業の内容]

- 第1回講義：簿記の基礎的知識（目的、5要素、財務諸表、仕訳・転記・試算表）
- 第2回～8回講義：勘定科目と仕訳（商品売買、現預金、債権債務、その他）
- 第9回講義：固定資産、減価償却
- 第10回講義：税、資本金
- 第11回講義：帳簿（仕訳帳、総勘定元帳等）
- 第12回講義：試算表
- 第13・14回講義：既習範囲復習
- 第15回講義：期末試験

財務諸表の構造（重要）

損益計算書 (Profit and Loss Statement) ×年×月×日～×年○月○日	
費用 483	収益 600
損益 117	

貸借対照表 (Balance Sheet) ×年○月○日	
資産 200	負債 87
純資産 113	

●資産 = 負債 + 純資産：貸借対照表等式 ●資産 - 負債 = 純資産：資本等式
●収益 - 費用 = 損益（利益or損失）：損益計算書等式

費用	収益
損益	

資産	負債
	純資産

BSとPLのひな形を頭に入れて、「有る方が+、逆が-」と理解すれば、仕訳を間違えることは無くなります。

資産	負債	純資産	
+ -	- +	- +	
収益		費用	
- +	+ -		

（第1回講義で使用したスライド。左は財務諸表のモデル、右はモデルと各要素の増減関係を示した図）

租税公課（費用）

- 簿記会計上、税金には2つの種類がある
 - 費用として処理できる税金
 - 費用として処理できない税金
- 学ぶのは、**費用として処理できる税金**
 - 固定資産税、印紙税
 - 租税公課（費用）として処理

消費税のしくみ

事業者が納めた消費税額の総額（①+②+③）は100円、これは結果として消費者が負担していることになる。



(第10回講義で使用したスライド。左は租税公課の説明、右は消費税の仕組みを示した図)

[授業の効果等]

- 市販テキストを利用することで、授業外の自習（特に復習）を容易に行えるよう配慮した。
 - 授業はテキスト内容を基礎として進行実施、また作成した投影用スライド資料もテキスト内容をベースにより一層かみ砕いて表示した。
 - テキストに付属している練習問題の解答用紙を作成して事前に配布した。
- 学生の持つ花と緑の専門性に、そしてビジネス社会の共通言語である数字について学習することでビジネスパーソンとしてのマインドセットを養えたと考える。

【担当教員としての所感】

- 「難しい」という感想を抱く学生は毎年必ず居り、毎年の授業上の工夫・改善と共に小テストの実施などを通して学生の復習を促した。なお、「難しい」ことが問題ではなく「自分にとって難しいことに挑戦して悩んだり理解したりする体験」を通して成長を実感したか、が大切だと考える。
- 簿記における「複式」という概念は、日常生活で意識することがほとんど無いことも「難しい」という感想を抱く理由の一つであると思われる。これまで同様に今後も現実の生活で体験することに引き付けて説明することを一層意識する。＊例えば、卒業後に就職して自動車をローン（借金）で買うということは、自動車という資産を手に入れるとともに、ローン（借金）という負債（＝負の資産）も手に入れることだ、など
- 授業時間（90分×15コマ）上の制約があり、現状では自習で練習問題を解答するように促している。

趣旨

専修学校は、学校教育法において、「職業若しくは実際生活に必要な能力を育成し、又は教養の向上を図ること」が目的とされ、医療、福祉、工業等の分野において、実践的な職業教育機関として人材を輩出してきた。

人生100年時代やデジタル社会の進展の中で、職業に結びつく実践的な知識・技能・技術や資格の修得に向けて、リスクリング・リカレント教育を含めた職業教育の重要性が高まっていること等を踏まえ、専修学校における教育の充実を図るため、専門課程の入学資格を厳格化するとともに、専修学校における専攻科の設置に係る規定の創設、一定の要件を満たす専門課程の修了者への称号の付与、専門課程を置く専修学校への自己点検評価の義務付け等の措置を講ずる。

概要

大学等との制度的整合性を高めるための措置

- ① 専修学校の専門課程の入学資格について、大学の入学資格と同様の規定とする。 【第125条関係】

※専門課程の入学資格について、高等学校等を卒業した者に「準ずる学力があると認められた者」から、高等学校等を卒業した者と「同等以上の学力があると認められた者」に改める。

※専修学校専門課程の在籍者の呼称を「生徒」から「学生」に改める。 【第128条関係】

- ② 専修学校となるために最低限必要な学習時間に関する基準を、大学・高等専門学校と同様に「単位数」により定めることができるようとする。 【第124条関係】

専門課程修了者の学修継続の機会確保や社会的評価の向上のための措置

- ③ 一定の要件を満たす専門課程（以下「特定専門課程」という。）を置く専修学校には、専攻科を置くことができることとする。 【第125条の2関係】

※専攻科は、特定専門課程を修了した者等が、より深く学び・研究することを目的とした課程。

※一定の要件を満たす専修学校の専攻科については、短期大学及び高等専門学校の認定専攻科と同様に、大学等における修学の支援に関する法律に基づく修学支援制度の対象に含める。 【大学等における修学の支援に関する法律第2条関係】

- ④ 特定専門課程の修了者全てについて大学編入学資格を認めるとともに、当該修了者は専門士と称することができることとする。 【第131条の2、第132条関係】

教育の質の保証を図るための措置

- ⑤ 専門課程を置く専修学校に大学と同等の項目での自己点検評価を義務付けるとともに、外部の識見を有する者による評価を受ける努力義務を定める。 【第132条の2関係】

施行日

令和8年4月1日